

## 五箇山方面の名水探訪に参加して

大井タミ子

昨年秋に「富山の名水を守る会」に友人と入会し、令和3年7月25日(日)五箇山方面への名水探訪に初めて参加しました。初対面の人との活動に少し緊張の面持ちで集合場所へ。バスに乗り込む際に頂いたタイムスケジュールに目を通すと5か所の名水を巡る行程が案内されていて、こんなに…Σ(°Д°)…。

行程一番目 丸池の名水 国道156号線沿いの道善寺に到着。お寺は静かな佇まいで迎えてくれました。御堂の横を通り抜けると丸い蓋で覆われた丸池。蓋の中を覗くと砂地にきれいな水が湧いているのが見えます。「水を飲むのは自己責任ですよ」の声(弟からよく聞いた言葉)。一口、二口、口に水を含むとても円やかな口当たり「ほお〜」と息をする。あと4箇所を巡りながら水質検査の為の取水、清掃、水の環境・保全等説明があり活動の一端を知る事が出来ました。会員の方々の観光・交流もありとても有意義な名水探訪となりました。

「富山の名水を守る会」の入会を勧めてくれた弟(青木理事長)と岡岸会長に感謝。



丸池の霊水



脇谷の水



観光ガイドと一緒に生地 名水まち歩き



## 令和3年度「名水探訪」(黒部方面)に参加して

鈴木 康裕

「名水探訪」に参加しました。魚津市坪野の“薬師の水”の清掃活動や観光ガイドによる 生地地区の名水巡りでした。当日の当会の案内文では、硬度や pH の数字の記載がありました。

さて、会員の皆様、硬度はどのようにして決定されると思いますか？硬度は、水に溶解しているカルシウムとマグネシウムの量を炭酸カルシウムの量として表したものです。一般的には200mg/Lを超えるような水のことを硬水、200mg/L 以下の低い水のことを軟水と呼んでいます。

日本の地層はミネラルの少ない火成岩が中心であり、山の傾斜も急なため雨水は短時間で海まで流れ出ます。そのためミネラルが水に溶け出す量が少なく軟水が多くなります。

一方、ヨーロッパではミネラルの多い堆積岩を主とした地層です。さらに地形の傾斜が緩やかであり、雨水は地層にゆっくり浸透してミネラルを吸収するため、硬水になります。

硬水・軟水ともそれぞれ味に特徴があり、富山の名水(軟水)を是非 味わってみてください。

## 郡上八幡の名水

笹岡 幸雄

11月に名水探訪で郡上八幡を訪れました。

最初に博覧館で、伝統の郡上踊りの一端を見ながら、「立板に水」の解説を聞きました。これが郡上で出合った最初の「水」でした。私のような「横板に鳥もち」ではない滑舌に流石に「名水」の趣を感じました。

その後は、親切なガイドさんのお話を飛ばし飛ばし聞きながら、「いがわこみち」を歩きました。町の旦那衆が花街(かがい)で清遊した後、酔い覚ましに歩いたそうで、小川の鯉も何となく色っぽいなあと感じました。こんな素直(?)な感性ではなく、理性的に水を眺めておられた方から、吉田川の川床の石を帯状に並べた写真を見せてもらいました。これは戦国時代から、治水のために設けられた「水制」の一種です。信玄が笛吹川に作った六本丸太で四面体を作った「水牛(みずうし)」が水制としては有名ですが、この類のものはかつて県内にも見られたものです。

人々に災害をもたらす洪水が治水によって暮らしを助ける名水に変わるというのも、得心できることです。名水は、自然界にあるのではなく、人がつくるものと思われるよい機会でした。

水牛



「水牛」にあたって、水の勢いが弱められている。遠くから見ると河原に寝そべて首をもたげた牛のように見える。